

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【総括表】

◆基本方針別取組状況

【達成状況（自己評価）の目安】 ◎：年度目標以上のものが達成できた ○：年度目標が概ね達成できた
△：年度目標の一部が達成できた ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった

基本方針	重点取組項目		重点取組項目以外の取組項目数	主な取組内容（重点取組項目以外の取組みも含む）
	項目数	達成状況		
Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり	11	◎	9	・稲毛海岸地区部会エリアでは、青少年育成委員会と稲毛海岸地区部会（児童・母子福祉委員会）とで開催した「スポーツ交流会」では、これまでのグランドゴルフに加えモルックを追加し多世代間交流ができた。 ・幸町一丁目地区部会エリアでは、36地区連協が作成した医療機関・防災拠点・公共施設等が記されている「地域安全マップ」を活用し、地域住民の防災意識の向上を図っている。また、「防災講演会」を開催し、防災についての現状把握と全住民意識調査を行った。 ・真砂地区部会エリアでは、地域支え合い活動「ささえあい まさご」が引き続きゴミ出し支援・買物支援等を実施。また、自治会が中心となって見守りを兼ねた防犯パトロールを実施している。
		○	2	
		△	0	
		×	0	
Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	12	◎	9	・幸町2丁目地区部会エリアでは、多文化共生の取組みとして外国人居住者と既住民との交流を七夕を通じて千葉大学と交流した。国際交流として、民族楽器の演奏で多国籍音楽会を実施した。 ・高洲・高浜地区部会エリアでは、高洲・高浜地区部会のボランティア委員会が中心となってJR稲毛海岸駅前の花壇の手入れを実施した。 ・打瀬地区部会エリアでは、誰でも自由に参加できるコミュニティサロン「ふりースペース」を開催し、情報・意見交換の場として実施した。
		○	2	
		△	1	
		×	0	
Ⅲ 福祉を支える人づくり	3	◎	1	・磯辺地区部会エリアでは、磯辺地区内の障害者の地域活動の拠点となっている事業所へ外向き一緒に活動（庭木の夏ミカンを加工してのマーマレードづくりなど）をしたり、バス旅行に参加し車中でビンゴ大会を主導するなどの取組みを行った。 ・幕張西地区部会エリアでは、「ふれあい食事サービス」で手伝いで加わった方が調理ボランティアとして新たな協力者となったり、「子育てサロン」で参加者として利用していた方がボランティアスタッフとして参加してもらうようになったりと、活動の輪が広がった。
		○	2	
		△	0	
		×	0	
今年度の振り返り	26	◎	19	・令和6年度は、各地区部会エリアで設定された重点取組項目を中心に地域の各実施主体が活動を行ってきた。活動においてはコロナウィルス等の感染症対策を講じながら、特に地域住民の交流・通いの場、安否確認の場となる「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい 食事サービス」や「夏祭り」「敬老会」「防災訓練」「多世代(世代間)交流」「多文化共生」等の地域活動・行事・イベントの活動が活発に行われ、コロナ禍前までの状態に戻ってきている。 地域住民の健康促進・フレイル予防と地域の活性化・住民同士の交流、安全・安心のまちづくりを充実させる活動に力を入れてきた。
		○	6	
		△	1	
		×	0	

今後の課題と方針	美浜区特有の地域課題（集合住宅での高齢者独居世帯、エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民のひきこもり・外出困難・買物困難、新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流、支え合い活動等地域福祉活動の担い手不足、活動拠点の確保 等）について、地域課題解決のため「第5期 美浜区支え合いのまち推進計画」（美浜区地域福祉計画）において、令和6年度には各地区部会エリアで設定された重点取組項目を中心に活動を行っている。 地域課題から生じるニーズに対応するような活動は、各地区部会エリアで設定された重点取組項目として「見守り活動」「支え合い活動」「ふれあい いきいきサロン(高齢者の交流の場)」の設置・周知・充実化を図る取組みを行い、また「祭り・盆踊り・スポーツ大会 等」の実施により多世代・新旧・外国人との地域住民の交流が行われる場を作り、さらにそのイベントに参加してきた住民を地域福祉活動の参加へと促していくことにより担い手の発掘・養成へと繋がり、課題解決のための取組みとなっている。 令和7年度も引き続き、「第5期 美浜区支え合いのまち推進計画」の各地区部会エリアで設定された重点取組項目を中心に地域福祉活動に取り組んでいきたい。
----------	--

資料1

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	8月23日(金)	議題(1) 副委員長の選任について 議題(2)「美浜区支え合いのまち推進計画」にかかる令和5年度における推進状況について 議題(3) 地域で実施している取組事例の発表について
第2回	3月18日(火)	議題(1)「美浜区支え合いのまち推進計画」令和6年度の取組みについて 議題(2)「みんなが主役 美浜区推進協だより No.23」について

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第23号	3月 1日(土)	発行部数:4,994部 配布先:町内自治会回覧用 4,449部 窓口(区役所・社協・公民館・コミュニティセンター 等) 545部

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

『幕西5656食堂(こども食堂)』～ 子どもから高齢者まで、地域の人々とのつながりの場 ～
幕張西地区に『幕西5656(ごろごろ)食堂』が、令和6年7月13日にオープンしました。
「食」を通じた交流の場として、無料または安価で食事を提供し欠食や孤食を防ぐことと、子どもから高齢者まで多世代の人たちが同じ場所に集って楽しんでもらえるような地域の人々とのつながりの場を作りたいという目的で立ち上げました。
立ち上げにあたり、千葉市社協 美浜区事務所のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）と相談しながら千葉市社会福祉協議会の「地域ふくし力アップ助成金」を活用することにより炊飯器・鍋やボウル・包丁等の調理器具・衛生用品・事務用品等の初期費用についての支援を受けることができました。
また、幕張西5・6丁目自治会の役員の皆さんにもご協力いただき、会場は幕張西5・6丁目自治会館別館で、毎月1回 土曜日または日曜日に開催しています。
提供する食事は、地元スーパーや千葉市子ども食堂ネットワーク「フードバンクおいでん検見川」、自宅(個人)で食べきれない食材等の寄附による材料からメニューを考えて、1食7～8品をボランティアさんが調理を行っています。ボランティアスタッフは中学生・高校生から高齢の方まで幅広く参加されていて、社会参加・社会貢献・仲間づくり・生きがい等につながっていくと期待しています。
利用者は、毎回、概ね30人位の参加で、中学生までの子どもから大人・高齢者まで利用者・ボランティア共に老若男女を問わず楽しんで参加しています。
また、毎回同じメニューにならないように、寄附でいただいた食材を工夫して調理した食事を楽しみに来てくれていて、回を重ねるごとに利用者が増えてきています。
開催後にはスタッフみんなで反省会を行い、メニューや盛り付けのこと、掛かった費用のこと、広報・周知方法のこと等について話し合い、良かった点・悪かった点として取りまとめて共有し、次の開催につなげています。

※ 協力団体
幕張西地区地域運営委員会
第30地区町内自治会連絡協議会
幕張西5・6丁目自治会
千葉市社会福祉協議会 幕張西地区部会
第606地区 民生委員・児童委員協議会
幕張西中学校区青少年育成委員会
食育推進員
千葉市消防団 第18分団3部
千葉市あんしんケアセンター 磯辺



千葉市社協 幕張西地区部会 広報紙『You&I』より

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
稲毛海岸地区部会エリア	I 住民主体による 協働のまちづくり	○	(1)顔の見えるご近所づきあいの構築	・稲毛海岸地区部会が主催する、「ふれあいいきいきサロン・子育てサロン・散歩クラブ」を実施する。 ・区内4自治会で、見守り活動を実施する。新規自治会に対しては、見守り活動の立ち上げを推奨していきたい。 ・区内の自治会において町丁ごとや各自治会単位で「夏まつり」を実施する。 ・稲毛海岸地区部会が主催する「敬老会」を実施する。 ・地区青少年育成委員会と地区スポーツ振興会および稲毛海岸地区部会で、これまで実施してきたイベントを継続する。	・「ふれあいいきいきサロン」「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」を実施した。各サロンの参加者は増加傾向にある。 ・バス研修旅行を2月に実施した。 ・「ふれあい 散歩クラブ」に防犯パトロールを兼ねて行っている。 ・区内4自治会で、継続して見守り活動を実施。立ち上がった新規の自治会に対しては、見守り活動の推進の案内を行っている。 ・青少年育成委員会と稲毛海岸地区部会とで開催した「スポーツ交流会」では、これまでのグランドゴルフに加えモルックを追加し多世代間交流ができた。 ・区内の自治会において町丁ごとや各自治会単位で「夏まつり」を実施した。 ・稲毛海岸地区部会において「敬老会」を開催した。	○	・稲毛海岸地区部会が主催する、「ふれあいいきいきサロン・子育てサロン・散歩クラブ」を今年度も引き続き実施する。 ・区内4自治会で、見守り活動を実施する。新規自治会に対しては、見守り活動の立ち上げを推奨していきたい。 ・区内の自治会において町丁ごとや各自治会単位で「夏まつり」を実施する。 ・稲毛海岸地区部会が主催する「敬老会」を実施する。 ・地区青少年育成委員会と地区スポーツ振興会および、稲毛海岸地区部会で、これまで実施してきたイベントを継続する。(歩け歩け大会・スポーツ交流会・マラソン大会) ・防災に関する意識は意外と高い。この点を利用して何かしら集まる機会を増やしたい。 ・稲毛海岸地区部会が主催する高齢者研修を1月か2月に実施する。(候補:国会議事堂見学)	・各団体(地域運営委員会・町内自治会連絡協議会・社協地区部会・青少年育成委員会・スポーツ振興会・民生委員児童委員協議会)の連携を強化し、連携してまちづくりを行っていききたい。 ・小学校・中学校・公民館・公園・自治会集会所といった場所を、もっと交流の場として活用し、世間話のコミュニケーション的な内容から見守り・安否確認・もしくは何らかの奉仕につながってくれる場を提供できるか検討したい。 ・稲毛海岸地区部会が主催する「健康フェスティバル」は令和6年度は実施できなかったが、参加する高齢者に配慮し町丁ごとにバス送迎を行う企画は参加者に好評だったことから、今後また開催を検討していききたい。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:11,644人 世帯数:5,086世帯		○	(3)“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・稲毛海岸3丁目地区において実施されている有志ボランティア(会員)による、地域支え合い活動「稲三サポートの会」を継続して活動する。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、6月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動を実施する。 ・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道での「あじさいプロジェクト」を実施する。 ・稲毛海岸地区部会が主催するボランティア講座を実施する。	・稲毛海岸3丁目地区において、地域支え合い活動「稲三サポートの会」が継続して活動をしている。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、6月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」を実施した。 ・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道でのあじさいの植栽を行った。 ・稲毛海岸地区部会が主催するボランティア講座を健康に関するテーマで10月に開催した。	○	・稲毛海岸3丁目地区において実施されている有志ボランティア(会員)による、地域支え合い活動「稲三サポートの会」を継続して活動する。 ・地域運営委員会を中心に地域内において、6月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動を実施する。 ・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道での「あじさいプロジェクト」の実施する。 ・稲毛海岸地区部会が主催するボランティア講座を実施する。終活をテーマとしたい。	・既に実施され定着している既存の活動を継続・充実させながら、地域住民のニーズに応じた新たな活動・イベントを考えていきたい。
【町内自治会数】								
(第38地区連協) 16町内自治会								
【高齢化率】	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(4)防犯・防災対策を通じた地域づくり	・4つの避難所運営委員会について、関係を強化し合同で何らかの訓練や防災イベントを実施できるようにし、自治会に加入していないところも巻き込んでいきたい。防災活動において、避難訓練・避難所開設訓練・安否確認活動や在宅避難方法についても各地区で差が出ないような取り組みを行いたい。	・避難所運営委員会が防災訓練の全体的な方向性や統括をしながら開設訓練を実施した。また、防災訓練が実施できる自治会は独自に実施した。	△	・区内の避難所運営委員会の関係を強化し、訓練や防災イベントを実施し、自治会に加入していないところにも呼びかけていく。 ・防犯パトロール隊の高齢化対策を早急に改善したい。	・自治会に加入していないところの防災活動・防災対策について考えていきたい。また、活動者の高齢化についても考えなければならない。
高齢化率:15.9%								
【地域の特徴】								
地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	III 福祉を支える人づくり	○	(12)オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり	・SNSを活用したサロン等の情報提供。 ・デジタル回覧板の採用と活用。 ・スマホアプリを利用した地区限定の情報を発信していきたい。	・千葉市の事業により38地区連協において、地域広報における「公式アカウントの作り方勉強会」を開催。無料・有料のLINEアカウントによる自治会単位での発信等について説明を受けた。デジタル回覧板も可能になることから導入についても検討していきたい。 また、地区部会としても情報発信・情報提供のツールとして考えていきたい。	○	・SNSを活用したサロン等の情報提供や、デジタル回覧板の活用、スマホアプリを利用した地区限定の情報発信等、新しい情報伝達の運用について実践的運用を考える。	・「あんしんカード」の普及とカードの内容更新について、進めていきたい。 ・個人のアカウントではなく地区のアカウントを作成することにより、個人情報の保護を図りながら情報提供等進めていきたい。 ・スマホ教室等を実施することにより情報機器に慣れていない年代の方にも漏れなく情報提供できる環境を整えていきたい。
				・地域行事(祭り・スポーツイベント等)をこれまで通りに行うことに加えて、障害を持っている方も巻き込んで、多くのボランティアの参加を促し、福祉活動の輪を広げていきたい。	・コロナ禍で中断していた行事も縮小や時短で再開したものが元に戻りつつあり、運営スタッフも増えその中から中軸になる人物が出てくることを期待している。また、行事に参加してくれる方も健常者のみではなく、様々な方が参加できる取り組みが少しずつ築けていると思う。		・地域行事(祭り・スポーツイベント等)を活発にし、多くのボランティア参加を促し、福祉活動の輪を広げていく。 ・ボランティア活動とは何かを再確認し、その周知と敷居が低い状況を生み出したい。	
			(15)ボランティア活動への参加促進			○		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
幸町2丁目地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による 協働のまちづくり	○	(2)地域福祉を推進する団体 等の交流やネットワークづくり	・幸町中央集会所のラウンジを活用して、週2回、集いの場「憩いの場 さいわい」を開催する。 ・「見守りネットワーク会議」を再開させる予定。 ・避難所運営委員会主催の防災訓練を8月に実施予定。中学生にも参加してもらい、街全体の防災意識を高めた。	・千葉幸町団地自治会が主体となって、「憩いの場 さいわい」を第1・第3木曜日の月2回、茶話会として開催した。(毎回20名参加) ・あんしんケアセンター幸町が事務局となって「見守りネットワーク会議」を開催した。地区部会・民生委員・行政だけでなく消防や民間事業者(薬局)も参加した。今後年1回の開催を予定している。 ・九都県市総合防災訓練に合わせて8月に旧幸町第一小学校を会場に防災訓練を行った。	◎	・幸町2丁目地区部会や千葉幸町団地自治会が主催する、「交流・集いの場(サロン)」を、引続き実施する。 ・あんしんケアセンター幸町が事務局となっている「見守りネットワーク会議」を引続き実施する。 ・避難所運営委員会が主催する防災訓練を引続き実施する。場所は幸町第一中学校を予定している。	・「ふれあい いきいきサロン」等の参加者数を、コロナ禍前までの人数に戻していきたい。 ・地域全体で“地域を巻き込む”ような活動・イベントを行うことが多世代交流や担い手の発掘に繋がっていく。教育委員会や育成委員会と連携・協力しながら子ども達に昔あそび等を伝えていくことが必要ではないかと考えている。(団地内の子どもの数が減少し、自治会も未結成が多い状況の中では、このようなイベントの実施は難しいのではないか。) ・旧幸町第二保育所跡地にオープンしたふくふく広場が子どもたちの集まる場所になっている。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:10,805人 世帯数:6,625世帯								
【町内自治会数】								
(第28地区連協) 11町内自治会								
【高齢化率】	Ⅱ 誰もが暮らし やすい環境づくり	○	(7)地域での助け合い活動の 推進	・千葉幸町団地自治会が主催する「お助け友の会」(助け合い活動)の活動を実施し、地域住民の困り事のニーズに応えられる活動を行っていききたい。 ・引き続き、あんしんケアセンター幸町が事務局となり「幸町2丁目連携会議」を開催する予定。	・千葉幸町団地自治会が主催する「お助け事業部」(助け合い活動)の活動を実施した。 ・あんしんケアセンター幸町が事務局となり「幸町2丁目連携会議」を年3回開催した。 ・外国人居住者と既住民との交流を七夕を通じて千葉大学と実施した。 ・国際交流を目的とした民族楽器の演奏による多国籍音楽会を実施した。(UR主催 年2回実施)	◎	・千葉幸町団地自治会が主催する「お助け事業部」(助け合い活動)の活動を実施する。 ・あんしんケアセンター幸町が事務局となっている「幸町2丁目連携会議」を継続実施する。 ・幸町2丁目住民に生活と暮らしぶりに関するアンケートを実施する。	・当該地域では、外国人が増加してきており、地域のコミュニティの形成に支障をきたしてきている。多文化共生として既住民との交流を地域行事に参加してもらうことで図っていききたい。 ・子どもを通して親どうしの繋がりを形成していきたい。この繋がりがから高齢者や外国人が地域・社会から取り残されないようにできないか考えていきたい。 ・「幸町2丁目連携会議」を有効に活用し、引き続き情報の共有と連携強化に努めていきたい。
【地域の特徴】								
東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。								
高齢化率:32.2%								
【地域の特徴】								
東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。								
高齢化率:32.2%	Ⅲ 福祉を支える人 づくり		(15)ボランティア活動への参加 促進	・幸町2丁目地区部会が主催する「ボランティア講座」を継続開催し、地域が公的機関(行政・警察等)との繋がりを保っていきようにしていきたい。	・幸町2丁目地区部会が主催する3つの「ふれあい いきいきサロン」が合同で開催したサロンにおいて、警察の協力による講話を行った。	○	・幸町2丁目地区部会(3つのふれあい いきいきサロン合同)が主催する「ボランティア講座」を実施する。	・地域の高齢住民の交流の場である「ふれあい いきいきサロン」への参加をきっかけに地域活動への参加(担い手の発掘)へと繋げていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合　○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
幸町一丁目地区部会エリア				・「健康スポーツ」をさらに推進させていく。特にポッチャは、子ども・大人・高齢者と三世代が参加しやすいことから、交流できるふれあいの場となるようにさせていきたい。 ・男性も参加しやすくなるような「ふれあいいきいきサロン」を作っていきたい。また「ふれあい 食事サービス」をより一層充実させていきたい。	・幸町一丁目地区部会では、①歌の会「アネモネ」②親子の集い「ぐーちよきぱー」③「ひだまり」④会食(持帰り選択可)「ふれあい給食」⑤「手話クラブ」⑥「輪踊りの会」⑦「健康スポーツの会」等のふれあいサロンを開催した。 ・「健康スポーツの会」ではポッチャを取り入れ練習会(月2回)及び大会(年2回)の開催とグランドゴルフ大会及びボーリング大会を開催した。 ・「ふれあい給食」では会食前にシニア体操を取り入れている。 ・ふれあいサロンを通し互いに支え合う仕組みができてつつある。	◎	・幸町一丁目地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス・健康スポーツの会」を今年度も引続き実施。 ・特に健康スポーツの会では地域住民の集いの場・安否確認の場となるよう、新たに「モルック」「健康マージャン」を企画し実施したい。また、男性も参加しやすくなるような工夫も考えたい。 ・36地区連協では、スマートフォンの使い方を気軽に聞けるような「スマホサロン」を淑徳大学生や地区内の学生の協力を得て開催したい。	・ニーズに合わせた情報発信ができるように努める。 ・世代間交流の機会や場を提供する。 ・「健康スポーツの会」は男性の参加が少なく定着しないことが課題である。参加促進のために、従来から実施のポッチャに加えて新規事業としてモルックの練習会・大会を行いたい。また「脳トレゲームの会」を立ち上げ、カードゲームや健康マージャン教室を検討したい。 ・「ふれあい給食」による会食・配食を通して、見守り活動を行う。 ・活動場所の確保が困難な場合がある。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:7,772人 世帯数:3,861世帯		○	(1)顔の見えるご近所づきあいの構築					
【町内自治会数】								
(第36地区連協) 18町内自治会								
【高齢化率】								
高齢化率:30.9%	I 住民主体による協働のまちづくり	○	(3)“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・公園の清掃・管理、植栽等を行いながら、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダー養成も行う。 ・盆踊り大会を実施する。 ・ラジオ体操を行い健康づくりに努める。 ・36地区連協が中心となって「幸町1丁目健康プラザ」を実施する。	・地域の美化活動として、「朝風会」によるゴミ拾いや幸町公園での清掃活動を実施した。 ・36地区連協による「盆踊り大会」を開催した。 ・幸町1丁目では、毎朝幸町公園にてラジオ体操を行い、地域での健康づくりに努めた。 ・36地区連協が中心となって「幸町1丁目健康プラザ」を実施した。	◎	・36地区連協が中心となって開催している「幸町1丁目 健康プラザ」を引続き実施。 ・地域の美化活動として、「朝風会」によるゴミ拾いや幸町公園での清掃活動の実施、「幸町公園友の会」や「幸町公園アジサイプロジェクト」では公園の清掃・管理、植栽等を実施し、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダー養成も期待したい。 ・買物困難者のための朝市を土曜日朝に再開させたい。	・教員の働き方改革により地域との連携が難しくなっており、地域行事の協力体制をどのように構築していったらよいか検討したい。 ・「呼び寄せ高齢者」対策について、あんしんケアセンターと連携し考えていきたい。 ・今後、買物や病院への移動に支障が懸念されるため、その対策について考えていく必要がある。 ・認知高齢者の見守りとその介護をする家族をケアするための施策を検討する。
【地域の特徴】								
東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。		○	(4)防犯・防災対策を通じた地域づくり	・行政(市)が実施している、高齢者緊急通報システム(ALSOK)の活用を普及させたい。	・高齢者の生きがいづくりの場として「人生万歳」を実施した。 ・青パトによる地区内防犯パトロールを実施した。 ・医療機関・防災拠点・公共施設等が記されている「地域安全マップ」を活用し地域住民の防災意識の向上を図った。 ・36地区連協による「秋季 防火防災総合訓練」を10月に実施した。 ・幸町一丁目ガーデンタウンにおいて、毎年1月に「もちつき」を実施した。	◎	・高齢者緊急通報システム(ALSOK)の普及に努める。 ・36地区連協が作成した「地域安全マップ」を活用し、「防災講演会」を開催し、「秋季防火防災総合訓練」も実施。 ・36地区連協により「在宅避難ガイド」を作成し地区内の住民世帯に無料で配布。また被災時における要支援者サポート体制を検討。 ・毎年1月の「もちつき」を引続き実施。 ・36地区連協が中心となって5チームによるパトロール体制(防犯活動)を実施。	・地域住民のボランティアによる見守り活動については限界があることから、行政(市)が実施する「高齢者緊急通報システム(ALSOK)」の活用を勧めたい。同時に、ALSOKの利用には条件があること、今後ますます独居高齢者が増えることから、携帯電話(スマホ)や他媒体による新たな見守りシステム(民間事業者(LINEサービス等))の検討が必要と感じている。 ・外国から発信される詐欺電話等不信な電話を受信しない操作方法等を周知し、注意喚起したい。
		○	(6)地域住民参加型の支え合い体制の構築	・「CoCo放課後自習室」を引続き実施する。ボランティア講師に、千葉大生を予定している。 ・「安心サポート」の会による支え合い活動を引続き実施していく。	・千葉大生の協力を得て、夏・秋休みに「勉強会」を実施した。 ・「安心サポートの会」による地域支え合い活動を引き続き実施した。	◎	・「安心サポート」の会による支え合い活動、「幸町ハッピータウンプレーパーク」や「CoCo放課後自習室」を引続き支援する。	・幸町一丁目地区は集合住宅が多く地域コミュニティが希薄なエリアもある中、支援する側・される側も高齢者であることから「災害対策」について今後検討したい。
		○	(8)地域の保健と医療との連携による心身の健康づくり	・理学療法士による「健康教室」を6回開催し、地域住民の健康増進と地域活動参加への周知を行っていきたい。	・幸町一丁目地区部会では理学療法士による健康教室を年6回開催した。男性高齢者の参加が増えた。	◎	・理学療法士による「健康教室」を今年度も引続き実施。	・今後も引き続き健康に関するイベント等を開催し、地域住民に健康促進・フレイル予防等に関する意識を高めていきたい。
	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(10)誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	・幸町一丁目地区部会の広報紙「小窓」(A4両面2ページ)を年間6回の発行のうち2回をカラー刷り4ページで発行する予定。	・幸町一丁目地区部会広報紙「小窓」を年6回発行した。 ・毎月の活動予定を周知する「〇月の社協」を発行、各自治会及び管理組合の掲示板に掲示した。 ・36地区連協による広報紙「けやき」を年6回 隔月で発行。地区部会広報紙「小窓」と交互に発行。ホームページも開設し、デジタルによる情報発信も行った。 ・幸町一丁目ガーデンタウン地区において、有線ケーブルテレビでも地域情報を発信した。 ・「ガーデンギャラリー」を開設し、地域文化の振興と情報を発信した。	◎	・36地区連協による広報紙「けやき」を年6回 隔月で発行。地区部会が年6回 発行する広報紙「小窓」と交互に発行する予定。 ・幸町一丁目ガーデンタウン地区において、有線ケーブルテレビにより、引続き地域の情報を発信する。	・現在、情報発信のツールとしてPCやスマホによるSNSが主流となり、今後「デジタル化・IT化」「AI」利用がますます進んでいくと思われるため、高齢者が情報難民とならないように、紙媒体での「広報紙」をさらに充実させて、必要な人に必要な情報の伝達ができるよう努めたい。
	III 福祉を支える人づくり		(15)ボランティア活動への参加促進	・理学療法士による「健康教室」を6回開催し、地域住民の健康増進と地域活動参加への周知を行っていきたい。	・幸町一丁目地区部会では理学療法士による健康教室を年6回開催した。男性高齢者の参加が増えた。	◎	・理学療法士による「健康教室」を今年度も引続き実施。	・地域でのイベントの参加をきっかけに地域活動の参加へと繋げられるようにしていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
高洲・高浜地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による 協働のまちづくり	○	(1)顔の見えるご近所づきあいの構築	・「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい食事サービス」を実施する。 また、コロナ禍で休止していたサロン交流会を開催し、地区内11サロンの活動状況の情報交換を行う。	・「ふれあい いきいきサロン」では、参加者のニーズに応じたメニューを実施した。 ・「ふれあい食事サービス」では、地域の高齢者を対象として、会食を3ヶ所で実施した。 ・8月と2月に高洲コミュニティセンターにて高洲・高浜地区部会が主催する「こどもフェスタ」を開催した。 ・自治会組織のない地域の75歳以上の高齢者を対象に、高洲・高浜地区部会が中心となって、「高洲・高浜地区合同敬老会」を開催した。	◎	・高洲・高浜地区部会が主催する、「ふれあい いきいきサロン・散歩クラブ・食事サービス(ふれあい会食会)」を、引き続き実施する。 ・サロンスタッフのために、「いきいきサロン」情報交換会(サロン交流会)を実施する。 ・高洲・高浜地区部会が主催する、「こどもフェスタ」を引き続き実施する。 ・高洲・高浜地区部会が中心となった「高洲・高浜地区合同敬老会」について、スタッフの準備の負担を考慮した形態で引き続き実施し、持続可能な敬老会を考えていきたい。	・29地区連協を中心とした地域運営委員会で高洲第二中学校の跡地利用について、200床の特養・不登校児を対象にした学校・保育園・体育館(バスケ アルティール千葉)等、子どもから大人・高齢者までが利用できる施設ができる予定とのこと。多世代の人たちが関われるような当該地域にとって有益となる活用方法について、今後も検討していきたい。 ・高洲・高浜地区部会が主催する、「ふれあい 食事サービス(ふれあい会食会)」の開催が、参加者にとっての交流の場・安否確認の場(見守り)となっている。あんしんケアセンターとも連携しながら今後も引き続き実施していきたい。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:38,274人 世帯数:20,780世帯								
【町内自治会数】								
(第29地区連協) 25町内自治会								
【高齢化率】								
高齢化率:32.4%	Ⅱ 誰もが暮らし やすい環境づくり	○	(5)町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・すでに実施されている活動事業をより充実させ、地域住民に浸透させていきたい。	・高洲・高浜地区部会 ボランティア委員会 が中心となって、JR稲毛海岸駅前の花壇の手入れを実施した。	◎	・高洲・高浜地区部会 ボランティア委員会 が中心となってJR稲毛海岸駅前の花壇の手入れを実施する。	・独居高齢者・高齢者世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。 ・植物(花壇)の手入れ(管理)を行っていくことの継続性と管理をする人の高齢化について、次の担い手発掘を含めて継続していくのか総合的に判断していかなくてはならない。
【地域の特徴】								
区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。								
	○	(9)健康づくりイベント等への参加促進	・すでに実施されている活動事業を、より充実させ、地域住民に浸透させていきたい。	・美浜いきいきプラザと協働で「健康フェスティバル」を開催し、健康測定会・講演会を実施した。	◎	・美浜いきいきプラザと協働で「健康フェスティバル」を引き続き実施する。	・介護相談室併設型のコンビニ(ケアローン)を活用したイベントを企画・実施していきたい。	
	Ⅲ 福祉を支える人づくり		(15)ボランティア活動への参加促進	・通常の活動やイベント・行事のなかで地域の方に声をかけて、新たな担い手につなげていきたい。 ・社協広報紙(地区部会だより)を活用して、新たな担い手を発掘していきたい。	・高洲・高浜地区部会 障害者福祉委員会で、車いす利用者と一緒にバス旅行を実施した。	◎	・引き続き、社協広報紙を活用して、新たな担い手を発掘したい。 ・11月に高洲・高浜地区部会と高洲コミュニティセンターとの共催で、高齢者の相談窓口についての講演会を開催予定。	・高齢者に関する最初の相談窓口である「あんしんケアセンター」について、地域高齢住民や高齢者を抱える家族に対して、存在・活用の周知を行う必要がある。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
真砂地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による 協働のまちづくり	○	(2)地域福祉を推進する団体 等の交流やネットワークづくり	・真砂地区部会が主催する、「ふれあいいきいきサロン・子育てサロン・食事サービス(ふれあい会食会)」や「啓蒙活動コンサート(クリスマスコンサート)」を実施する。 ・地域運営委員会会議を実施する。 ・「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」への参加による、真砂地区の各種団体のPRを実施する。	・「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい食事サービス」や「クリスマスコンサート」等を実施した。 ・地域運営委員会の会議を3ヶ月に1回開催し、情報交換・ネットワークづくりを図った。 ・真砂地区部会障害者福祉委員会が中心となって、地域内の障害者施設と地域活動を通して交流を図った。 ・地域で開催される「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」に参加して、真砂地区の各種団体のPR活動を行った。	◎	・真砂地区部会が主催する、「ふれあいいきいきサロン・子育てサロン・食事サービス(ふれあい会食会)」や「啓蒙活動コンサート(クリスマスコンサート)」を引続き実施する。 ・地域運営委員会会議を実施する。 ・「真砂コミュニティまつり」「美浜区民フェスティバル」への参加による、真砂地区の各種団体のPRを実施する。	・高齢者の交流の場となる「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい食事サービス」等をさらに充実・活発にし、単身の(寂しい)高齢者が孤独感・疎外感を感じることはないようにしていきたい。 また、地域活動従事者(住民ボランティア)がやりがいを感じられるような企画内容・結果にしていきたい。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:26,345人 世帯数:13,405世帯								
【町内自治会数】								
(第31地区連協) 33町内自治会								
【高齢化率】	Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(3)“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」を継続して実施する。 ・自治会が中心となっている、見守りを兼ねた防犯パトロールを実施する。 ・千葉西警察署や地元金融機関の協力を得て、高齢者への詐欺被害防止の啓発活動を行う。	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」は、引続きゴミ出し支援・買物支援等を実施した。 ・自治会が中心となって、見守りを兼ねて防犯パトロールを実施した。 また、千葉西警察署と連携して町内自治会の協力を得て防犯ポスターを貼り出し掲示した。	◎	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」を継続して実施する。 ・自治会が中心となっている、見守りを兼ねた防犯パトロールを実施する。 ・千葉西警察署や地元金融機関の協力を得て、地域住民の交流の場において高齢者への詐欺被害防止の啓発活動を行う。	・様々な活動における日常事務の処理をパソコン等により電子化・デジタル化させて、負担を軽減させることにより、活動参加者を確保していきたい。 ・地域支え合い活動において、高齢のボランティアスタッフ(従事者)の肉体的・体力的負担を軽減させるような方策考えることが活動の継続性・高齢者のボランティア参加を促進・促すことにつながっていくと考えられる。
高齢化率:31.0%								
【地域の特徴】								
北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。								
	Ⅲ 福祉を支える人づくり	○	(10)誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	・夏祭り等の場を活用して情報発信を行う。 ・引続き、地域運営委員会のホームページで情報発信を行っていく。	・地域運営委員会のホームページ内で、各団体が情報の更新を随時行うことができ、誰もが見やすいように整備した。 ・真砂地区部会が発行する広報紙「真砂ふれあいだより」を地域内に全戸配布し、存在や活動の周知を図った。	◎	・地域運営委員会のホームページで情報発信を引続き実施する。誰もが興味を持って見たいくなるように身近な内容を充実させる。 ・真砂地区部会が発行する広報紙「真砂ふれあいだより」の地域内全戸配布を行う。	・地域住民の福祉意識(支える⇔支えられる)を高め、まちの価値を高めていきたい。 また、空き家対策について、まち全体で検討し、防災・防火対策や感染症対策等につなげていきたい。 ・真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策(情報提供・発信)を講じていきたい。 ・災害避難時における避難所・避難中の災害関連死を減らせるよう、避難所設備や非常食(災害食)を改善していきたい。
			(14)ボランティア人材の育成	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」への新規依頼者も増えてきていることから、様々なニーズに対応できるよう、新たな活動者(協力員・サポーター等担い手)の発掘や、すでに活動している方たちへの再研修等を行い、活動を継続・充実させていきたい。 ・福祉サービス提供事業者の活動(ヘルパーによる掃除等家事援助サービス)を隣近所の人や「ささえあい まさご」の従事者が確認(点検)し、より質の高いサービスの提供につなげていきたい。	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」では、広報紙や声掛けにより、新たに2人の活動者が加わった。	○	・地域支え合い活動「ささえあい まさご」の、担い手(ボランティア協力員)の発掘・養成を行う。	・様々な活動における日常事務の処理をパソコン等により電子化・デジタル化させて、負担を軽減させることにより、活動参加者を確保していきたい。 ・地域支え合い活動において、高齢のボランティアスタッフ(従事者)の肉体的・体力的負担を軽減させるような方策考えることが活動の継続性・高齢者のボランティア参加を促進・促すことにつながっていくと考えられる。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針	
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)				
磯辺地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による 協働のまちづくり		(1)顔の見えるご近所づきあいの構築	・「ふれあい いきいきサロン」を「ミニサロン」として設置していく。 ・高齢者の交流の機会の場として、地域の拠点である地域ルームで開催している「ゆるカフェ」を実施する。	・年度当初より1自治会が新たに「ミニサロン」を開催。自治会単位でのミニサロンについては、4自治会が展開することとなった。 ・「ゆるカフェ」については、参加者による口コミでの周知が進み、誘い合っでの参加も多い。	○	・磯辺地区部会が主催する、「ふれあい いきいきサロン・子育てサロン・食事サービス(ふれあい会食会)」を、引続き実施する。 ・「ミニサロン」の普及と充実化に努める。 ・「ゆるカフェ」の周知と充実化に努める。	・集いの場となる「サロン」の周知・普及活動を引続き行い、地域の高齢者の交流機会の場を充実させていきたい。	
令和7年3月31日 時点									
【人口・世帯数】									
人 口:18,593人 世帯数:8,327世帯									
【町内自治会数】		(3)“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・磯辺地区(33地区連協)28自治会の内4自治会で実施している「見守り活動」を継続させながら、さらに一歩進んだ「支え合い活動」へと転換させていきたい。	・「見守り・声かけ活動」は、4自治会で継続された。「支え合い活動」へと転換させていくことは、引続き課題となっている。	○	・磯辺地区(33地区連協)28自治会の内4自治会で実施している「見守り活動」の継続と「支え合い活動」への発展に努める。	・「見守り・声かけ活動」を継続させながら「支え合い活動」へと発展させていきたい。		
(第33地区連協) 28町内自治会									
【高齢化率】									
高齢化率:35.1%									
【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前までで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ち並び、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。		Ⅱ 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(7)地域での助け合い活動の推進	・磯辺地区(33地区連協)で自治会単位で実施している「地域支え合い活動」について実施を検討している未実施の自治会に対し、実施に向けた啓発・説明を行っていきたい。	・「支え合い活動」を自治会で実施することの重要性や必要性については承知している自治会が多い。早い時期より「支え合い活動」を導入し、実績を挙げている自治会もあることから、あらゆる機会を通して、啓発・説明ができるように努力している。	△	・「地域支え合い活動」について、磯辺地区(33地区連協)は自治会単位で実施している。自治会によっては、まだ活動の組織がないため実施に向けた啓発・説明等、立ち上げの努力を行っていきたい。	・地域課題の一つである高齢者福祉の推進にあたり、4自治会で実施している「見守り活動」を、「地域支え合い活動」へと展開・繋げていけるよう考えていきたい。 ・「あんしんケアセンター」や「生活自立・仕事相談センター」のPRを積極的に行い、活用の周知をさらに行う必要がある。 ・高齢者や社会的弱者に関する課題に対して専門諸機関を連携させて活用が図れるようにしていきたい。 ・地域課題を共有して解決策や支援体制を構築していけるよう、街ぐるみで高齢者対策について考えていかなければならない。
					○	(12)オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり			
	Ⅲ 福祉を支える人づくり	○	(15)ボランティア活動への参加促進	・磯辺地区部会と33地区連協の共催で、地域支え合い活動の実践者による話を未実施地区の自治会の方を対象に講演会を開催したい。 ・様々な地域団体が地域活動をしているところをツアー的に参加・体験・手伝いをしてもらうところから、活動の担い手を発掘・引き込んでいきたい。 ・時間と体力・活動力のある60歳代にターゲットを絞って、地区部会活動の担い手として引き込んでいきたい。	・令和6年度も、さまざまな感染症が年間を通して流行する状況であったため、地域拠点にある程度の人数を集めての講演会の実施には、踏み切れなかった。 ・障害者の地域活動の拠点となっている事業所へ出向き、一緒に活動(庭木の夏ミカンを加工してのマーマレードづくりなど)をしたり、バス旅行に参加し車中でビンゴ大会を主導するなどの取り組みができた。	○	・磯辺地区部会が主催する「ボランティア講座」を実施する。 ・事業所との交流の継続のなかで、情報交換を行いつつ、ボランティア活動に興味がある人を地区部会の事業に参加してもらえるようにしていきたい。	・福祉に関わる「人」の確保と、その「質」の向上を目指すためには何をやるべきなのかを、よく考えていく必要がある。 ・これまでの社協地区部会の活動をこれからも継続させて(成り立たせて)いくためには、地区部会の担い手(人材)の確保が大事であり、そのためにも、地区部会がやるべきことを確立し継続させていくことを磯辺地区全体で考えていきたい。 ・社協地区部会の人材(ボランティア)確保について、現役世代も取り込みたいところであるが、地区部会の活動・行事の多くが平日の日中であるためミスマッチとなっている。	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
幕張西地区部会エリア	I 住民主体による 協働のまちづくり	○	(3)“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	・幕張西地区部会が主催して、小学3年生以上を対象とした「料理教室」を開催する。 ・「幕西5656食堂」(地域子ども食堂)を地元のスーパーからの支援や助成金を受けながら開催していきたい。	・幕張西地区部会が主催する、小学3年生以上を対象とした「料理教室」を2月に開催した。(15名参加) ・「幕西5656食堂」は、7月から始まり毎月一回開催。千葉市社協 地域ふくし力アップ助成金を活用し、地元の広報紙や幕張西地区部会の広報紙(YOU & I)への掲載、スーパー・宅配事業者等による食材の提供、調理や受付のボランティアスタッフ等、幅広い年代の様々な方たち・団体・企業からの協力・連携により開催することができた。 ・幕張西地区部会が主催する、高齢者を対象としたバス研修旅行を2月に実施した。	◎	・幕張西地区部会が主催する、「ふれあいいきいきサロン・子育てサロン・食事サービス(ふれあい会食会)」を、引続き実施する。 ・幕張西地区部会エリア(30地区連協)内の町内自治会が主催するサロン(交流・集いの場)を引続き実施する。 ・「幕西5656食堂」(地域子ども食堂)を引続き実施する。	・幕張西地区部会エリア(30地区連協)15自治会の内、見守り活動が立ち上がっていない2自治会に対して、引き続き「見守り活動」の実施について働きかけていきたい。 ・幕張西地区部会エリアでは、30地区連協(町内自治会)と幕張西地区部会との協力体制が整っているため、より一層この連携が強まるようこれからも努めていきたい。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:11,754人 世帯数:4,993世帯								
【町内自治会数】								
(第30地区連協) 15町内自治会								
【高齢化率】								
高齢化率:20.9%								
【地域の特徴】	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	○	(5)町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・幕張西地区部会エリア(30地区連協)において、安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施する予定。	・11月に幕張西小学校の体育館・校庭を利用して、30地区連協による防災訓練を実施した。	◎	・幕張西地区部会エリア(30地区連協)において、安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施する。 ・30地区連協が主催する「盆踊り」を、地域内の各団体と連携・協力して、引続き実施する。	・30地区連協が主催する「盆踊り」が、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場としてこれからも継続して開催できるよう地域内の各団体と連携・協力していきたい。
区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。								
	III 福祉を支える人づくり		(15)ボランティア活動への参加促進	・「ふれあい食事サービス」の活動については食育推進員・町内自治会・社協 地区部会が協働して取り組んできた。 また、新たな人材も発掘していきたい。	・「ふれあい食事サービス」では、手伝いで加わった方が調理ボランティアとして新たな協力者となってもらうことができた。 ・「子育てサロン」では、以前、参加者として利用していた方が今度はボランティアとして参加してもらうようになったりと、活動の輪が広がった。	◎	・幕張西公民館と共催し幕張西地区部会が主催する、「ボランティア講座」を引続き実施する。	・引き続き、新たな担い手の発掘・養成を進めるため「ボランティア講座」の開催や声掛け・ロコミを行っていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和6年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】◎：年度目標以上のものが達成できた場合 ○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合 ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

地区部会エリア	基本方針	重点 取組 項目	取組項目	令和6年度		達成状況	令和7年度 目標又は予定	今後の課題と方針
				目標又は予定	実績 ※任意記載として、振り返り(感想)			
打瀬地区部会エリア	Ⅰ 住民主体による 協働のまちづくり	○	(4) 防犯・防災対策を通じた地域づくり	・防災対策として「備えパーク」を引き続き実施し、いざという時の消防・防災・ペット対応等について学んでいきたい。 ・令和5年度に実施した事業については、引き続き継続して実施し、各事業を地域に根付かせていきたい。	【住民主体による協働のまちづくり】 ・5月に「ベイタウンまつり」、8月に「夏祭り」、10月に「クラシックカーレースゴールセレモニー」「コアフェスタ」を、12月に海浜幕張駅、ワールドビジネスガーデンアトリウムにおいて「幕張新都心クリスマスイベント」を開催した。 また、1月に「ベイタウンマラソン大会」「餅つき大会」を実施した。 【防犯・防災対策を通じた地域づくり】 ・3月に防災対策として「備えパーク」を幕張海浜公園にて開催した。 ・9月に千葉県警察、千葉西警察署と特殊詐欺防止の強化を目指し、地域支えあいの街づくりの一環として、警察庁のSOS47プロジェクトの招致により、打瀬公民館で防犯落語の公演を行い、100名の来場があった。	◎	・防災対策となる「備えパーク」を、今年度も引き続き実施する。 ・千葉県警察、千葉西警察署の協力による、特殊詐欺被害防止のための勉強会を実施する。 また、千葉西警察署の地域一体となったまちづくりの活動として、春夏秋のイベントに特殊詐欺防止の呼びかけを実施する。 ・「自身への備え」「在宅避難」についての防災講座の開催する。	・地域のニーズ(要望)に応じながら各事業を継続させていき、一定期間(3年程度)を過ぎたところで振り返り、評価していくことが必要である。 ・打瀬地区部会・47地区連協と地区内の商店会・民間企業等と、連携・協働しながらまちづくりを進める。 ・防災対策・要支援者対策について、ベイタウンの街区単位で対応・完結できるように各住民に対しても意識づけをしていきたい。 ・敬老会の開催を行うマンション管理組合は、昨年度に比べて増加したものの、実施期間が限定されているや、民生委員との協働が必要なことから、多くは消極的である。自助・共助をまち全体でカバーするのではなく、マンション単位で高齢者や要支援者の把握を行う必要性を訴えていきたい。
令和7年3月31日 時点								
【人口・世帯数】								
人 口:30,267人 世帯数:11,536世帯								
【町内自治会数】								
(第47地区連協) 27町内自治会								
【高齢化率】								
高齢化率:12.4%								
【地域の特徴】	Ⅱ 誰もが暮らし やすい環境づくり	○	(5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり	・ベイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」において、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等の開催。 ・打瀬地区部会が実施する「子育て・発達障害勉強会」や認知症に関する映画の上映会を実施し、発達障害・認知症等に対する理解を深め、支援していくことに繋げていきたい。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格実証調査を行い交通弱者を外に出やすくするという目標に向けて運用方法について検討していきたい。 ・「子どもまち歩き＆クリーン作戦」では、地域内のゴミ拾いをするところから環境問題に関心を持ってもらうため、夏祭りでの特典を付ける等して多くの子ども達に参加してもらえるよう工夫していきたい。	・コミュニティスペース「絆」において、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等が月例で開催された。 ・打瀬地区部会 障害者福祉委員会では、6月に初めての企画として「子育て勉強会『子育てのヒントお話しします』」を開催。また、2月には第3回目となる認知症をテーマにした映画上映会を開催した。(上映作品「ケアニンあなたでよかった。」) ・誰でも自由に参加できるコミュニティーサロン「ふりスペース」を開催し、情報・意見交換の場としている。 ・「グリーンスローモビリティ(愛称:ベイ太くん)」の実証調査の実施(9月1日～11月30日の3ヶ月間)の延べ乗車人数1,064名、走行距離1,000kmを60名の地域ボランティアの活動により達成。千葉市・NTT社会情報研究所・千葉大大学院等、産官民一体となった取り組みに至った。 ・「子どもまち歩き＆クリーン作戦」では、街中と県立幕張海浜公園のゴミ拾いを行い、幕張新都心のQVCスクエア本社の施設見学を実施。350名の児童・生徒・保護者、教職員等が参加した。	◎	・軽度認知障害(MCI)に関する講座を開催及び認知症をテーマにした映画上映会を開催する。 ・認知症カフェ(「ベイタウンかふえ」「そよかぜの会」)を継続して開催する。 ・ベイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」での、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等を実施する。 ・「グリーンスローモビリティ」の本格運用の定着と運用後の実績を踏まえて交通弱者対策や運用方法についての継続検討。 ・地域内のゴミ拾いと環境問題に関心を持ってもらうことを目的に「子どもまち歩き＆クリーン作戦」を今年度も引き続き実施する。	・打瀬地区部会では、障害を持つ人とその家族に対する支援を引き続き行い、強化していきたいと考えており、障害に対する正しい理解を得たうえで、当事者やその家族への支援の意識を定着・高めて行けるようにしたい。 ・発達障害に対する支援も浸透させ、親御さんが気軽に集まれるような場所(フリースペース)を設けていきたい。 また、その悩みに個別に对应していけるような機会を作っていきたい。
東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。								
	Ⅲ 福祉を支える人 づくり	○	(14) ボランティア人材の育成	・打瀬地区部会が主催するボランティア講座「健康フェスティバル」は、地域に根付いてきていることから、引続き今年度も実施していきたい。	・3月に高齢者を対象にした健康診断会「第3回健康フェスティバル」を開催し、定員として設定した50名の参加があった。 ・11月に打瀬中学校で実施したEX講座では、障害者福祉の講座の他、共存し住み続けられるまちづくりをテーマに、支え合いの大切さを学ぶ場を設けた。	◎	・打瀬地区部会が主催するボランティア講座「健康フェスティバル」を引続き実施する。 ・打瀬地区地域運営委員会が主催するEX講座は、今年度から地域のコミュニティ広報誌(ベイタウンニュース)を通じて、住民への講師の公募を実施し、参加促進にもつなげたい。	・地域住民が興味を持ってもらえるような企画のイベントを地区内各種団体・組織と連携して実施したい。実施により参加した住民が主催者側に関心を持ってもらうことにより「人づくり・担い手の発掘」につなげていきたい。また地域づくり・地域福祉に関心を持ってもらい、世代を超えてお互いが気軽に声を掛けあえる・手を差し伸べられるような環境を作っていきたい。
		○	(15) ボランティア活動への参加促進	・市立海浜病院が主催する地域住民の健康増進を目的とした打瀬地区住民向けの「糖尿病予防セミナー」を開催し、地域内施設の地域貢献活動に協働していきたい。	・新たな取組みとして海浜病院認定看護師による健康セミナーは、初年度として「糖尿病の予防基礎講座」及び「嚥下機能障害」の2講座を開催した。 ・打瀬地区部会が開催する各種行事において、参加された方々に地区部会への加入、ボランティアとしての活動への参加を声掛けしている。 ・5月と8月のまつり会場に屋台を出店し、中学生のボランティアによる高齢者への声掛けを行った。	○	・打瀬地区部会が開催する各種行事において、参加された方々に、地区部会への加入・ボランティアとしての活動への参加を声掛けを行う。 ・30周年記念事業のプログラムとして、打瀬地区の小中学校卒業生に向けて、ホームカミングデーを催し、地域への関心を高めてもらう企画を検討する。 ・昨年度に継続して5月と8月のまつり会場に屋台を出店し、近隣の大学や中学校のボランティア参加の機会を提供する。	・地域活動を行うボランティア・担い手の発掘にあたっては、募集にあたっての声のかけ方についても工夫をしていきたい。 ・打瀬地区部会では、今後更に地区部会活動の状況をタイムリーに発信し、各世代の皆様に興味を持っていただくことがボランティアの参加に繋がることに期待し、ベイタウン協議会のご理解、ご支援を頂き、ホームページでの活動計画、実績情報の発信に力点を置いて取り組んでいきたい。